

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑫

継続的な支援の重要性～進行性疾患への対応～

リハビリテーションの概念には、身体機能回復の視点だけでなく、身体機能低下の予防や身体機能維持の視点も含まれます。進行性疾患のように身体機能が低下していくケースでは、身体機能の状況に応じた継続的な関わりが必要になります。特に、在宅で生活している場合には、少しでも長く在宅で生活を続けていくための対応が重要です。

◆支援要請機関：行政(保健師) 対応職種：SW、PT、OT

ケースは筋ジストロフィーで在宅生活を送っています。地域支援センターは約10年前から継続的に関わっており、今までに、車椅子の作成、リフター導入、パソコンのスイッチ検討、介助指導など対応しました。今回は車椅子のクッションの検討と電動車椅子の操作検討で訪問となりました。

車椅子のクッションは耐用年数が過ぎたため更新の希望がありました。現在、ピタクッションとラテックスクッションを2枚重ねて使用しています。本人はこの組み合わせを希望していましたが、他のクッション1枚で代用できないか検討しました。別のピタクッションの中から2枚重ねのタイプやウレタン、空気圧調整タイプを実際に座っていただき比較検討しました。しかし、実際の座り心地だけでなく、食事の際に2枚のクッションを少しずつすることで姿勢調整をしており、やはり現状の組み合わせが望ましいということになりました。

電動車椅子操作は右手で操作していますが、徐々にコントローラーの操作、特に後方と右側方が難しくなっていました。そのため、コントローラー自体の抵抗を減らすことで上肢操作の抵抗を減らし、またコントローラーの位置を少し手前に調整することで指先の操作性を高めることができ、以前より操作が楽になりました。

今後も身体機能の状況に応じて継続的な対応を行い、少しでも在宅生活が続けていけるように支援していきたいと考えております。 (小泉 千秋)

